

第1回

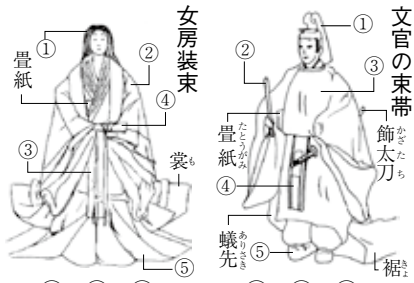
古典の図録

p.24 ~ p.73

① 「貴族の生活と慣習」の「貴族の一生」を読んで、次の各ことばの読み方を()に書き入れ、その意味を()に簡潔に説明しなさい。(p.24・25)

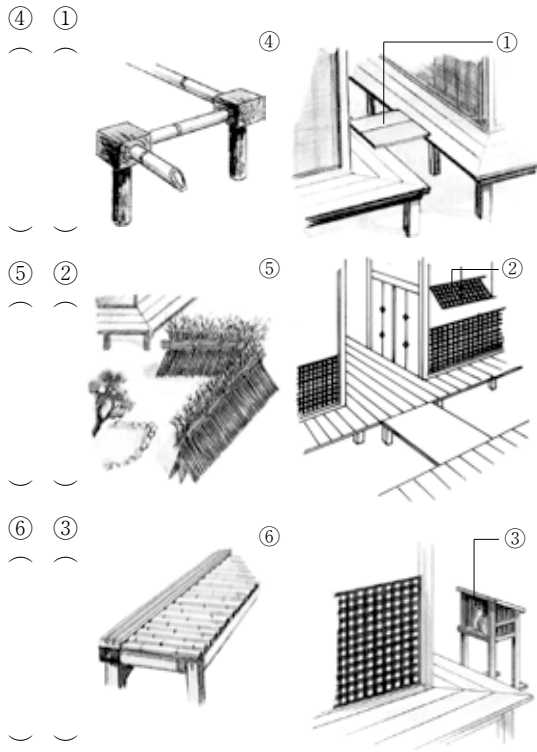
- ① 読書 ()
- ② 産養 ()
- ③ 袴着 ()
- ④ 元服 ()
- ⑤ 初冠 ()
- ⑥ 裳着 ()
- ⑦ 垣間見 ()
- ⑧ 算賀 ()

② 次に挙げる装束の名称を調べて()に記入しなさい。(p.34・39)



- 女房装束 (Woman's Court Attire):
 - ① 裳 (Shimo) ()
 - ② 袴 (Hakama) ()
 - ③ 襦袢 (Juhon) ()
 - ④ 腰巻 (Yosode) ()
 - ⑤ 足袋 (Tabi) ()
- 文官の束帯 (Wenkan no Hosotatebatai):
 - ① 袴 (Hakama) ()
 - ② 袴太刀 (Hakamatachi) ()
 - ③ 飾太刀 (Kazari-tachi) ()
 - ④ 腰巻 (Yosode) ()
 - ⑤ 足袋 (Tabi) ()

③ 建物の部分名称を調べて()に記入しなさい。(p.57)



- ① 鳥居 (Torii) ()
- ② 縁 (En) ()
- ③ 障子 (Shoji) ()
- ④ 床 (Tokonoma) ()
- ⑤ 土間 (Doma) ()
- ⑥ 縁側 (Engawa) ()

④ 次の調度について、読み方を()に答えなさい。またそれらは何に使()うものか。調べて()に簡単に記入しなさい。(p.58・59)



- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()
- ⑥ ()

⑤ 次の十干・十二支一覧の空欄を埋めて完成しなさい。(p.72)

十干		十二支	
五行	弟	十二支	生
木	甲	子	鼠
①	③	①	牛
土	戊	寅	虎
②	⑦	卯	④
庚	④	辰	⑤
癸	④	巳	②
()	()	未	⑥
()	()	申	③
()	()	酉	⑥
()	()	戌	()
()	()	亥	()

⑥ 次の一覧表の1月の項目を参考にして、残り2月～12月までの空欄を埋めて完成しなさい。(p.32・33・73)

冬		秋			夏			春		月						
12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	陸月	異名	読み方(現代仮名遣い)	他の主な異名	主な年中行事
(晦日)	(中の卯の日)	(一日)	(九日)	(十五夜)	(十五日)	(晦日)	(五日)	(中の酉の日)	(三日)	(四日)	(元日)	むつき	孟春	四方拝	()	()

第4回

歴史・軍記物語

p.140 ~ p.150

1 次の上代の歴史物語・史書について、各問いに答えなさい。(p.146)

問1 次の解説文の()に、適当な語句を書き入れなさい。

『古事記』はその序文によると、() (天皇に命じられて) ()が誦習した天皇の系譜や古い言い伝えを、①天皇没後の和銅四年(七二二)に、() (天皇の勅命で) ()が整理・筆録した。翌和銅五年(七三二)に献上。内容は、上・中・下巻から成り、とりわけ中巻には、三輪山伝説や、() ()による西征と東征などを収め、文学性豊かなものがある。

一方、『日本書紀』は() ()が勅命を受けて責任編集した日本最初の官撰歴史書。成立は養老四年(七二〇)。三〇巻。外国への強い意識と、天皇を中心とした中央集権国家確立のための理論的・精神的支柱が目的。文体は純粹な() ()体。()の『風土記』は、各国の産物地味・地名の由来などを各国庁が報告した公文書。地誌として、また上代文学・国語・地方文化研究の貴重な資料。現存完本は『() ()』のみ。()の『風土記』のみ。

問2 「六国史」奈良初く平安前期に編纂された六種の勅撰歴史書を挙げなさい。

Table with 2 columns and 4 rows containing numbers 1-6 for historical works.

3 『平家物語』について、各問いに答えなさい。(p.144~147)

問1 書き出し冒頭文を、p.87を参照して書き入れなさい。

Blank box for writing the opening text of Heike Monogatari.

問2 次の解説文の()に、適当な語句を書き入れなさい。

作者はその説として多数挙げられているが、確定したものはない。成立は鎌倉中期ごろか。諸本としては、() ()の巨匠覚一によって応安四年(三三二)に完成された覚一本が知られている。物語の中心は() ()が太政大臣となった仁安二年(一二二七)から、壇浦での() ()の元暦二年(一一五二)ごろまで約二〇年間。平家繁栄の陰に泣く祇王・小督らの() ()、反平家の動きを見せた俊寛らへの過酷な処罰、木曾義仲や() ()の勇猛な合戦譚などを生き生きと描く。() ()や() ()など後代の文学にも大きな影響を与えた。

問3 年表(p.144・145)や「系図」(p.148・149)を参照して、『平家物語』に登場する主な人物をまとめてみよう。(それぞれ三〜五名程度。)

Table with 4 columns for listing characters: 1. Emperor/Upper House, 2. Heike warriors, 3. Minamoto warriors, 4. Other people.

2 『大鏡』について、各問いに答えなさい。(p.141~143)

問1 書き出し冒頭文に当たる「雲林院の菩提講」の部分で、「大鏡」作品の世界」(p.143)を参照して書き入れなさい。

Blank box for writing about the Buddhist lecture in Daikyo.

問2 次の解説文の()に、適当な語句を書き入れなさい。

書名の() ()は歴史を写すもの意で、『世継』『世継の翁が物語』とも。作者は未詳。成立も未詳だが、堀河・鳥羽天皇(一〇八六~一一三三)のころか。() ()のころか。紫野の雲林院の菩提講に集う翁たちと若侍の話が筆録する形をとり、() ()形式で書かれている。内容は一四代一七六年度の歴史を物語風に記し、中国の『史記』に倣って() ()体をとる。構成は、序、本紀、列伝、() ()、昔物語の五部からなり、() ()の栄華の由来を物語ることが主題。

問3 『大鏡』の「文学的価値」についてレポートしてみよう。50字~100字程度

Blank box for writing a report on the literary value of Daikyo.

4 次の解説文に合う作品名を()に書きなさい。(p.150)

- 1 作者は、正編は赤染衛門、続編は出羽弁説が有力。成立は平安中後期か。四〇巻。編年体。藤原道長の栄華を中心に、宮廷貴族の生活を仮名書きで詳しく描く。
2 作者は二条良基説が有力だが、未詳。成立は一四世紀後半か。一七巻。後鳥羽院の誕生から後醍醐天皇の隠岐島より京都への還幸までの歴史、約一五〇年を編年体で記す。
3 作者は未詳。成立は鎌倉初〜中期か。三巻。保元の乱の顛末を和漢混交文で記した軍記物語。
4 作者は小島法師とも言われるが、未詳。成立は一四世紀後半か。四〇巻。後醍醐天皇の倒幕計画から、建武新政、足利尊氏や楠木正成の活躍、足利義満の時代まで、約五〇年間の全国的な戦乱(南北朝の動乱)を、叙事的・批判的に描く軍記物語。
5 著者は比叡山の学僧慈円。成立は承久二年(一一三〇)。七巻。史論書。日本の政治の変遷を「道理」で捉える。
6 著者は北畠親房。成立は延元四年(一一三三)。三巻など。徳のある天皇を摂関家中心に貴族が補佐する政治を理想として、南朝の正統性を論証する史論書。
7 作者は未詳。成立は室町初期か。八巻。源義経の生涯を、不遇な生い立ちと悲劇的末路に重点をおいた、一代記風に描く伝記物語。

第10回 森鷗外

p 248
～
p 251

- ① 次の文章の()に適切な語句を書き入れなさい。
- 森鷗外は、陸軍軍医としての()^① (留学から帰国後、訳詩集『()^②』、小説『()^③』)をはじめ、翻訳流行期には、夏目漱石の活躍の刺激もあって()^④ (の立場をとり、『キタ・セクスアリス』^⑤)『()^⑥』(小説に転じ、その後さらに()^⑦に転じた。

② 森鷗外の年譜を参照して、各時代ごとの作品を五つずつ書き入れなさい。

① 浪漫主義文学の時代 (27歳～37歳)	
② 観潮楼時代 (41歳～50歳)	
③ 歴史小説・史伝の時代 (51歳～61歳没)	

③ 次の各作品の解説文の()を埋め、作品名を()に書き入れなさい。

- ① 「国民之友」に発表された短編小説。清新な異国情緒と典雅な文体で読者を魅了した浪漫精神あふれた名作。『()^①』()^②』とともに鷗外初期三部作である。

- ② 「スバル」に連載された長編小説。漱石の『()^①』()^②』に刺激されて書かれ、日本の文壇、思想界、社会に対する批判が明白に出ている思想小説で、鷗外の()^③小説への転換の姿勢も示されている。

- ③ 「中央公論」に発表された短編小説。財産の観念の「知足」の問題と、医学上の「()^①」()^②の問題を提起する。いわゆる〈歴史離れ〉の歴史小説で、後の()^③ ()^④や菊池寛らのテーマ小説の先駆をなした。

④ 森鷗外の作品紹介や「あらすじ」を読んで、気に入った作品を一つ書き入れなさい。(そして、読書感想文も書いてみよう。)

第11回 夏目漱石

p 252
～
p 255

- ① 次の文章の()に適切な語句を書き入れなさい。
- 夏目漱石は、()^① (派と呼ばれ、()^②と呼ばれた鷗外とともに、()^③ (派的な立場で活躍した日本近代文学史上の巨峰である。彼の小説は鋭い風刺、()^④ ()^⑤あふれる新奇な角度から人間社会を描いた『()^⑥』()^⑦に始まり、清新で健康的なおかしさ、反俗精神にみちた名作『()^⑧』が世に出た。晩年には「私」(エゴ)の超克を天に則ることに求めようとする人生態度「()^⑨」()^⑩の心境に達して、その具象化を『()^⑪』で試みたが、未完に終わった。

② 夏目漱石の年譜を参照して、各時代ごとの作品を五つずつ書き入れなさい。

① 風刺と美意識の時代 (37歳～41歳)	
② 三部作時代 (42歳～44歳)	
③ 大患から 「則天去私」への時代 (45歳～50歳没)	

③ 次の各作品の解説文の()を埋め、作品名を()に書き入れなさい。

- ① 「新小説」に発表された中編小説。現実を第三者的な立場から眺め、美の世界を創造しようという「()^①」()^②の境地から、漱石の浪漫的な「()^③」()^④を表す作品で、作家的地位を確立した初期の代表作である。

- ② 「朝日新聞」に連載された中編小説。『三四郎』をうけて『()^①』()^②』に続く三部作の中心をなし、世間の道徳的批判を超えた()^③ ()^④の正義に主題をおいた恋愛小説で、当時の知識人の典型を描いた作品。

- ③ 「朝日新聞」に連載された中編小説。上「先生と私」、中「両親と私」、下「先生と遺書」の三編からなる。「死」に至る人間の心の過程」を主題として「()^①」()^②」()^③の問題とともに「明治の世代意識」の典型とそれらの行きついた地点を示す。

④ 夏目漱石の作品紹介や「あらすじ」を読んで、気に入った作品を一つ書き入れなさい。(そして、読書感想文も書いてみよう。)

① 次の解説文の()には適当な語句や作品名を、()には人物名を書き入れなさい。(p.392~403)

- ① 春秋時代の思想家。儒家の祖とされ、「仁」を道徳の根本に据えた徳治主義・復古主義を唱えた。彼の死後、門人たちが収録した言行録『()』()二〇篇がある。
- ② 戦国時代の思想家。「亜聖」と呼ばれ、「孟母三遷」で知られる賢母に育てられた。仁義によって治める()政治を説き、性善説で有名。
- ③ 戦国時代の思想家。老子の「()」()の説に基づき、万物の無差別・平等を主張した。人間の作為を否定し、あるがままの姿、すなわち「道」に従うことを説いた。
- ④ 前漢時代の歴史家。父の遺言を受けて『春秋』以来の歴史を埋める大著『()』()二〇巻を書いた。
- ⑤ 六朝東晋の詩人・文章家。権力を嫌い、農作業をしながら酒や読書を愛した彼は、隠逸詩人と称された。『桃花源記』や、地方役人を辞して故郷に帰る決意を述べた『()』()などがあ
- ⑥ 盛唐の詩人。「詩仙」と評され、宮廷詩人としても活躍したが、讒言により追放される。その後、()と知り合い、共に旅をして友情を深めあう。『李太白集』三〇巻がある。

③ 次の漢文に、書き下し文を参考にして、返り点と送り仮名を付けなさい。(p.413・414)

- ① 君莫笑。(君笑ふこと莫かれ。)
- ② 人生如朝露。(人生は朝露のごとし。)
- ③ 有壳狗肉者。(狗肉を売る者有り。)

④ 次の漢文から、(a)返読文字、(b)再読文字、(c)置き字を抜き出しなさい。(それぞれ(a)~(c)の区別を付けて抜き出すこと。)(p.416・417)

- ① 及^レ時^ニ当^ニ勉^ニ励^ス。
- ② 自^ニ遠^ニ方^ニ来^ニ。
- ③ 樹^ニ欲^ス静^ニ而^{シテ}風^ニ不^レ止^マ。

⑤ 次の漢文を、それぞれの句形に注意して書き下しなさい。(p.418~429)

- ① 未^ダ嘗^テ不^レ廢^{シテ}書^ヲ而^{シテ}歎^セ。
- ② 信^ニ而^{シテ}見^レ疑^ハ、忠^ニ而^{シテ}被^レ謗^ス。
- ③ 為^レ人^ニ謀^リ而^{シテ}不^レ忠^ナ乎。
- ④ 燕雀安知^ニ鴻鵠^ノ之志^ヲ哉。

② 次の漢字の成り立ちや部首について、各問いに答えなさい。(p.410・411)

④	①	⑤	②	⑥	③
---	---	---	---	---	---

問2 次の部首にあたる漢字を二つずつ書きなさい。

- ① 偏(漢字の左側の部分を占めるもの。)
- (1) イ(人) にんべん
- (2) イ ぎようにんべん
- (3) 月(肉) にくづき
- ② 旁(漢字の右側の部分を占めるもの。)
- (1) 戈 ほこづくり
- (2) 隹 ふるとり
- ③ 冠(漢字の上部にあるもの。「かしら」とも。)
- (1) 冫 わかんむり
- (2) 廴 はつがしら
- ④ 脚(漢字の下部につくもの。)
- (1) 灬 れんが
- (2) 皿 さら
- ⑤ 垂(漢字の上部から左方へおおうもの。)
- (1) 冫 やまいだれ
- ⑥ 構(漢字の外側を囲むもの。)
- (1) 匚 はこがまえ
- ⑦ 繞(漢字の左方から下部をとりまくもの。)
- (1) 走 そうじよう

⑤ 直不百步耳。是亦走也。

⑥ 庸人羞之。况於将相乎。

⑥ 次の故事成語について、その意味を書きなさい。(p.438~441)

- ① 石に漱き流れに枕す(漱石枕流)
- ② 人口に膾炙す(膾炙人口)
- ③ 天網恢恢疎にして漏らさず(天網恢恢、疎而不漏)

⑦ 次の四字熟語について、その読みを()に、意味を()に書きなさい。(p.442~443)

- ① 阿鼻叫喚
- ② 意気衝天
- ③ 一蓮托生
- ④ 隔靴搔痒
- ⑤ 曲学阿世